

ワークシート、カード、タブレット端末を用いた漢字学習教材の開発 —日本語学習者間のグループ練習活性化のために—

濱田 美和・高島 智美

The Development of Kanji Learning Materials Using Worksheets, Flashcards and Tablet Computers: Aiming for the encouragement of active group work activities among learners of Japanese

HAMADA Miwa, TAKABATAKE Tomomi

要 旨

中・上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字クラスにおいて、教師主導による導入・練習後に学習者同士で行うグループ練習の活動を取り入れ、そのための教材開発に取り組んでいる。教師の援助なしで学習者だけで円滑にグループ練習を進めていけるような教材の作成を目指し、ワークシートとカードとタブレット端末、3つのツールを組み合わせたことが本教材の大きな特徴である。これまでの教材開発の過程の中で、各ツールにはそれぞれ利点と欠点があり、3ツールを適切に組み合わせることで各ツールの欠点を補え、学習者にとってより使いやすい教材作成ができることがわかった。一方で、ツールの多さが学習者の負担になる場合もあることが学習者同士のやりとりの観察により問題点として浮かび上がった。そこで、3ツール全てを用いる練習においては、同時に使用するのは2ツール以内としたところ、円滑に練習が進むようになった。本稿では3ツールの効果的な活用法に関して報告するとともに、開発した教材の内容を紹介する。

【キーワード】 漢字、日本語学習者、グループ練習、教材開発、ツール

1 はじめに

中級～上級レベルの日本語学習者（以下、「学習者」）を対象とした漢字クラス¹⁾において、2009年度より学習者同士によるグループ練習を導入している。導入当初は中級、上級の合同授業として開講していたことから、複式授業への対応がグループ練習導入の主な目的であった。しかし、学習者だけで練習を行うことによって、学習者同士で間違いを指摘し合ったりわからないところを教え合ったり、学習者自身で調べたりする機会が増え、学習漢字・漢字語の発話機会も多くなるという利点が見られたことから、複式授業を行わない学期においてもグループ練習を取り入れている。このように学習者同士での活動には様々な利点があるが、一方で、学習者だけでグループ練習を行うには、教師の援助なしでも円滑に進めていけるよう、様々な工夫が必要である。中でも教材への配慮が重要となる。学習者同士の活動においても、教師が傍らで必要に応じて説明を加えるなどして練習の進行をサポートすることも多いが、筆者らは教師の援助なしで学習者だけでの練習を開始、進行、終了できることを目指している。複式授業に対応できるようにすることがその一番の理由であるが、これに加えて、グループ練習中は教師が傍らにいないほうが、学習者同士でやりとりしたり、学習者自身で調べようとする機会が増えることが授業中の様子から見られたことにもよる。

グループ練習を導入した当初はワークシートとカードの2ツールを用いて教材を作成していたが、学習者の活動の様子を観察したところ、練習が円滑に進行していない場面がたびたび見られた。そこで、より簡潔にわかりやすい教材とするために、タブレット端末も加えて3ツールを用いて教材を作成したところ、改善が見られた（濱田・高島、2014）。漢字・漢字語の学習教材の開発において、ワークシート、カード、タブレット端末を用いることは一般的に行われているが、この3ツールを組み合わせた教材開発は管見の限り新たな試みだと思われる。本稿ではこれまでの教材開発の過程でわかった3ツ

ルの効果的な活用法を報告しながら、開発した教材の内容を紹介する。そして、学習者のグループ練習中のやりとりを分析することで学習者にとっての使用上の困難点を明らかにし、ツール使用の観点から教材開発における留意点を述べたい。

2 漢字クラスとグループ練習

2.1 漢字クラスの概要

グループ練習を取り入れているのは、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000plus』（凡人社）を教科書として用いている、日本の大学で学ぶ留学生を対象とした中級および上級レベルの漢字クラスである。中級レベルのクラスでは同教科書の vol.1（以下、『IKB1』）、上級レベルのクラスでは vol.2（以下、『IKB2』）を用い、いずれのクラスも各期15週間、週1回90分の授業で教科書を1課進むペースで行っている。毎回の授業は、基本的に（複式授業を行う期は一部順番の変更あり）前回の復習用確認テストを実施した後、その回の学習項目の予習用宿題を学習者同士で確認し合い、教師主導で漢字・漢字語を導入練習し、最後に学習者同士でグループ練習を行うという流れになっている。

2.2 グループ練習の概要

グループ練習の主な目的は、導入した漢字の定着、学習者同士の学び合いを通じて自律学習の促進を図ることである。学習者2～3人で1グループを作り²⁾、その課の学習漢字・漢字語にかかわる設問に解答する形で行う。練習の進め方は、その課の練習内容に合わせて2つのタイプを用意した。1つはグループ内で出題者と解答者を決めて出題、解答しながら進めていく出題解答型で、もう1つはグループ内で相談・協力しながら答えを考える協力解答型である。各課10～20分程度の練習で、ワークシート、カード、タブレット端末（プレゼンテーションアプリを利用）を用いて教材を作成した。

グループ練習の内容は表1の通りである³⁾。課によっては、段階を追って2つの練習を行う課もある。その場合は、L2-1、L2-2のように示した。なお、『IKB2』は全16課あるため、学習者と相談の上、授業で扱う課を決めている。L9とL12とL13は授業で扱う機会が少ないため、グループ練習は行っていない。

2.3 学習者同士のやりとりのデータ

冒頭で述べたように、漢字クラスは複式授業を行う期もあり、授業中に学習者同士のやりとりを教師が十分に把握できないことも多い。そこで、教材の改善を目的に、2012年度よりグループ練習中の学習者の発話を録音・録画している。2016年度前期までに『IKB1』で123、『IKB2』で112、計235（総録音時間65時間33分）の学習者同士のやりとりを収集した。グループ練習に参加した学習者55人（『IKB1』22人、『IKB2』28人、『IKB1』と『IKB2』の両方5人）で、出身国・地域別の内訳は、ロシア15人、韓国10人、中国7人、ブラジル4人、ベトナム3人、インドネシア、スリランカ、タイ、台湾、フランス、モンゴル各2人、アメリカ、イタリア、インド、キルギス各1人である。録音・録画の記録以外に、学期末に学習者にグループ練習に関するアンケート調査の実施、および、授業中に教師が気づいた点の記録も行っている。これらの分析を通して、学習者だけでグループ練習を行う際に練習方法がわからずに戸惑っていたり、進め方を間違ったり、練習の準備や進行に時間がかかったりしている要因を探り、教材の改訂を行っている。

表1 グループ練習の内容

	課	型	グループ練習の内容
『IKB1』	L1	出題	①自身の自己紹介に関わる語をできるだけ多くワークシートに漢字で書き、それらの語を用いて、自己紹介する。 ②他の学習者がそれを聞いてワークシートに書き取る。
	L2-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みをもとに、その漢字が書かれたカードを探す。
	L2-2	協力	タブレット端末に表示された熟語と対の意味の熟語のカードを探す。
	L3	協力	①タブレット端末に表示された漢字1字とカードを組み合わせて熟語を作る。 ②タブレット端末に表示された例文中の空所に入る漢字カードを探す。
	L4	出題	①出題者はカードに書かれた5つのヒントをもとに出題する。 ②他の学習者は出題者の出すヒントを聞いて、ワークシート（グループ内で共有）の熟語から適当な語を選択し、正解の場合はヒントの数に応じてワークシートに点数を記入する。
	L5-1	協力	タブレット端末に表示された熟語と同じ読みの熟語のカードを探す。
	L5-2	出題	①出題者は同音異義語を含む例文カードを読む。 ②他の学習者はその語を漢字でワークシートに書く。
	復習1	協力	形声文字について、タブレット端末に表示された部首と音記号のカードを組み合わせて漢字を作り、その漢字を使った熟語の読みを答える。
	L6-1	協力	複数の接辞の漢字が書かれたワークシート（グループ内で共有）上に、各接辞と結びつく熟語のカードを配置して複合語を作る。
	L6-2	協力	タブレット端末に表示された意味をもとに、その意味に該当する複合語のカードを探す。
	L7	協力	①タブレット端末に表示された意味をもとに、画面に表示された漢字とカードの漢字を組み合わせて熟語を作る。 ②タブレット端末に表示された例文に入る漢字カードを探す。
	L8-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みをもとに、その漢字が書かれたカードを探す。
	L8-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る漢字カードを探す。
	L9	出題	①出題者は同訓異義語を含む例文カードを読む。 ②他の学習者はワークシートから適当な漢字を選択して印をつける。
	L10	協力	①タブレット端末に表示された意味をもとに、類義語のカード（赤・青）を各1枚選ぶ。 ②タブレット端末に表示された例文中にいずれの語が入るかを答える。
	復習2	協力	復習1と同じ
『IKB2』	L1	出題	①出題者はカードに書かれた語句の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語句をタブレット端末に表示された選択肢から探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L2-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答え、意味を確認する。
	L2-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る語を、例文の下に提示された選択肢から選ぶ。（正解確認後にワークシート記入）
	L3-1	協力	タブレット端末に表示された熟語が「する動詞」として使えるかどうかを答える。
	L3-2	協力	①タブレット端末に表示された例文に入る語（名詞）のカードを、例文中の動詞との共起関係をもとに選ぶ。 ②名詞の後に適当な助詞を入れ、例文を完成させる。（正解確認後にワークシート記入）
	L4-1	出題	①出題者はカードに書かれた語の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語をタブレット端末に表示された選択肢から探す。
	L4-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L5-1	協力	タブレット端末に表示された語の意味をもとに、画面に表示された熟語と結びつく接辞を、熟語の横に提示された選択肢から選び、複合語を作る。
	L5-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L6-1	協力	タブレット端末に表示された語の意味とその例文をもとに、画面に表示された漢字とカードの漢字を組み合わせて熟語を作る。
	L6-2	協力	タブレット端末に表示された例文中の和語動詞と置き換え可能な漢語動詞をカードから探す。（正解確認後にワークシート記入）
	L7-1	協力	6枚のカードに書かれた仮名文を、漢字仮名交じり文にしてワークシートに書く。
	L7-2	協力	1文ずつ書かれた6枚のカードを並べ替えて文章を完成させる。（正解確認後にワークシート記入）
	L8-1	協力	タブレット端末に表示された熟語を読む。

L8-2	協力	①タブレット端末に表示された動詞 3 語すべてと共に起する名詞をカードから探す。 ②名詞の後に適当な助詞を入れ、動詞文を 3 つ完成させる。(正解確認後にワークシート記入)
L10-1	協力	タブレット端末に表示された漢字を組み合わせると同音異義語を作り、ワークシートに書く。
L10-2	出題	①出題者は同音異義語が含まれた例文カードを読む。 ②他の学習者はタブレット端末から適当な漢字を探す。(正解確認後にワークシート記入)
L11-1	出題	①出題者はカードに書かれた熟語の意味を読む。 ②他の学習者はその意味に該当する語をタブレット端末に表示された選択肢から探す。
L11-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。(正解確認後にワークシート記入)
L14-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答える。
L14-2	協力	各自異なる内容のワークシートを持ち、それぞれの例文中に入る語をタブレット端末に表示された熟語から選んで記入する。(正解確認後にグループ全員の解答(正解)をワークシートに記入)
L15-1	協力	タブレット端末に表示された熟語の読みを答える。
L15-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語のカードを探す。(正解確認後にワークシート記入)
L16-1	協力	①各自異なる内容のカードを持ち、タブレット端末に表示された漢字が含まれる熟語をカードから複数探す。 ②グループ全員のカードに共通して現れる熟語を選んで、ワークシートに書く。
L16-2	協力	タブレット端末に表示された例文に入る熟語を、L16-1でワークシートに記入した語の中から探す。(正解確認後にワークシート記入)

3 グループ練習用教材におけるワークシートとカードとタブレット端末の使用

3.1 各ツールの使用状況と教材例

グループ練習用教材は、基本的に、指示文、設問、解答の選択肢、解答記入欄、解答(正解)の5つで構成される。このうち、指示文と設問と解答(正解)の3つは必須要素で、全ての課のグループ練習に含まれるが、解答の選択肢と解答記入欄については含まれない課もある。これら5つの構成要素におけるワークシート、カード、タブレット端末の使用状況を表2に示す。

表2 グループ練習用教材における3ツールの使用状況

	課	指示文	設問	解答の選択肢	解答記入欄	解答(正解)
出題 解答型	(1) 『IKB1』 L1	ワークシート	ワークシート*		ワークシート	ワークシート*
	(2) 『IKB1』 L5-2	ワークシート	カード		ワークシート	カード
	(3) 『IKB1』 L4, L9	ワークシート	カード	ワークシート	ワークシート	カード
	(4) 『IKB2』 L11-1	タブレット端末	カード	タブレット端末		カード
	『IKB2』 L1	タブレット端末	カード	タブレット端末	ワークシート	カード
	(5) 『IKB2』 L4-1	タブレット端末	カード	タブレット端末		カード、タブレット端末
協力 解答型	『IKB2』 L10-2	タブレット端末	カード	タブレット端末	ワークシート	カード、タブレット端末
	(6) 『IKB2』 L2-1, L3-1, L8-1, L14-1, L15-1	タブレット端末	タブレット端末			タブレット端末
	(7) 『IKB2』 L5-1	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末		タブレット端末
	『IKB2』 L2-2, L10-1	タブレット端末	タブレット端末	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末
	(8) 『IKB2』 L16-2	タブレット端末	タブレット端末	ワークシート	ワークシート	タブレット端末
	(9) 『IKB1』 L2-1, L2-2, L3-1, L3-2, 復習 1, L6-2, L7-1, L7-2, L8-1, L8-2, L10, 復習 2, 『IKB2』 L6-1	タブレット端末	タブレット端末	カード		タブレット端末
	『IKB2』 L3-2, L4-2, L5-2, L6-2, L8-2, L11-2, L15-2, L16-1	タブレット端末	タブレット端末	カード	ワークシート	タブレット端末
	(10) 『IKB1』 L5-1	タブレット端末	タブレット端末	カード(表)		カード(裏)
	(11) 『IKB2』 L7-1	タブレット端末	カード(表)		ワークシート	カード(裏)
	(12) 『IKB2』 L7-2	タブレット端末	カード		ワークシート	タブレット端末
	(13) 『IKB1』 L6-1	タブレット端末	ワークシート	カード		タブレット端末
	(14) 『IKB2』 L14-2	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末	ワークシート	タブレット端末

*学習者の自己紹介にかかわる内容で、設問、解答(正解)は学習者自身で考えて記入

出題解答型、協力解答型における3ツールの典型的な使用パターンとして、表2(3)(5)(6)(9)に該当する課の中から、教材例を挙げて説明する。

出題解答型(3)の『IKB1』L9(図1)は同訓異義語が学習の要点となる課であるが、練習ではまず「ワークシート」に書かれた指示文を読んで練習の手順を確認する。この後で練習に移り、出題者が「カード」に書かれた例文を読み、解答者が出題者の読んだ例文中に含まれる同訓異義語の漢字を「ワークシート」に書かれた選択肢から選び、印をつける。そして、出題者が「カード」に書かれた正解を解答者に伝える。

出題解答型(5)の『IKB2』L4-1(図2)は通信関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、出題者が「カード」に書かれた語の意味を読み、解答者がその意味に該当する語を「タブレット端末」に表示された解答の選択肢から選んで言う。そして、出題者がカードに書かれた正解を解答者に伝える。この練習ではタブレット端末上の語をタップすることでも正解が確認できるようになっている。

指示文：
ワークシート
↓

設問：
カード
↓

解答の選択肢：
ワークシート
↓

解答記入欄：
ワークシート
↓

解答（正解）：
カード

<どの漢字？> 1人がカードを読みます。他の人は適当な漢字を選んで○をつけてください。

例 あう	会う	合う
------	-----------	----

1) 兄と祖父はよく似ています。
2) 富山駅に10時に着きます。
3) 子どもが手を振っています。

<どの漢字？>

例 あう	会う	合う
1) いる	似る	煮る

<どの漢字？>

例 あう	会う	合う
1) いる	似る	煮る

1) 兄と祖父はよく似ています。
2) 富山駅に10時に着きます。
3) 子どもが手を振っています。

図1 出題解答型の教材例『IKB1』L9

指示文：
タブレット端末
↓

設問：
カード
↓

解答の選択肢：
タブレット端末
↓

解答（正解）：
カードと
タブレット端末

クイズ1のやり方
③順番にクイズを出します。
1番の人は、カードの「意味」を読んでください。

意味：お互いに、実力が
同じぐらいであること
読み：ごかく 答え：互角

「意味」に合うことばを選んでタップしてください。

検索	駆使	互角
対称	観光	極端
仮定	双方	統合
普及	衛星	需要

全問終了したら、ここをタップしてください。 クイズ2へ

意味：お互いに、実力が同じぐらいであること

互 角

意味：お互いに、実力が同じぐらいであること

図2 出題解答型の教材例『IKB2』L4-1

協力解答型(6)の『IKB2』L2-1(図3)は教育関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、同じく「タブレット端末」に表示された熟語を見て、その読みを答え、最後に「タブレット端末」をタップして正解を確認する。

協力解答型(9)の『IKB2』L15-2(図4)は政治関係の漢字語を学ぶ課であるが、練習では「タブレット端末」に表示された指示文を読んだ後、同じく「タブレット端末」に表示された例文を読み、例文中の空所に入る熟語を「カード」の選択肢から選ぶ。そして、「タブレット端末」をタップして正解を確認した上で「ワークシート」に解答を記入する。

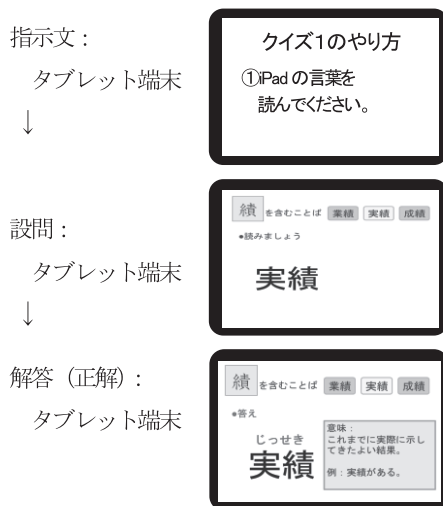


図3 協力解答型の教材例『IKB2』L2-1

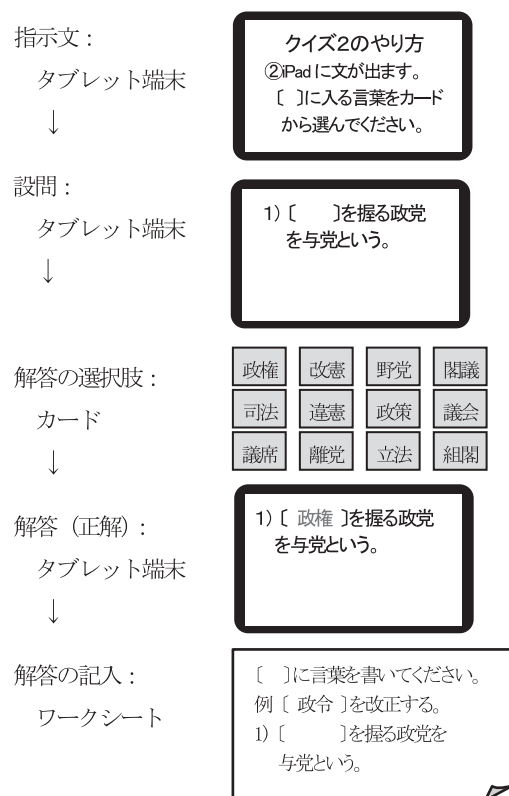


図4 協力解答型の教材例『IKB2』L15-2

このように、各課の練習内容に合わせて3ツールを組み合わせで教材化している。以下、指示文、設問、解答の選択肢、解答記入欄、解答（正解）において、それぞれワークシート、カード、タブレットをどのように活用しているかを述べる。

3.1.1 指示文

指示文はグループ練習の手順を説明する文章で、学習者は練習開始時にまず指示文を読み、練習方法を把握する必要がある。指示文の提示には主にタブレット端末を用いた。タブレット端末を用いると、フラッシュカードのように少しずつ指示文を提示していけるため、練習の進行に合わせて提示しやすく、また、一度に提示される情報が少ないことから、学習者にとって心理的負担の軽減にもつながるなどの利点がある。ただし、指示文以外でタブレット端末を使わない課（『IKB1』L1, L4, L5-2, L9）については、活動自体がシンプルで簡単な説明で済むこともあり、タブレット端末は用いずにワークシートで行った。

3.1.2 設問

設問は基本的に教師が用意した。本教材を作り始めた当初は学習者自身で設問を考えるタイプの練習を複数取り入れていたが、濱田・高島（2013）で報告したように、教師の援助なしで練習を行う場合は困難点も多かったため、改訂版では『IKB1』L1の自己紹介にかかわる練習のみ、学習自身で設問を考える練習としている。設問は練習タイプ別に次のように3ツールを使い分けた。

まず、解答者には見えないようにして出題者だけがみられるように設問を提示する必要がある出題解答型の練習では、グループの学習者それぞれが異なる情報を持つのに適したカードまたはワークシートを用いた。カードは情報の一括提示に適したワークシートと異なり、情報の小分け提示に適したツールである。カードを用いることにより、練習の進行に合わせて必要な情報だけを見やすく提示できるため、出題者が各設問内容を把握しやすくなる、さらに、適宜出題の順番を変えたり、解答者がなかなか正解

にたどり着けない場合にヒントとして情報の一部を見せたりしやすいといった利点もあることから、出題解答型では基本的にカードで設問を提示した。『IKB1』L1はワークシートで設問を提示しているが、上述の通りこの課だけ学習者自身で設問を考える練習であるため、各自で考えた設問の記入がしやすいワークシートを用いた。

次に、グループの学習者全員で見られるように設問を提示する必要がある協力解答型の練習では、タブレット端末を主に用いた。タブレット端末はワークシートと比べると、次のような利点がある。1つは情報の小分け提示に適していることから学習者がある時点で取り組むべき設問がどれであるかを把握しやすいこと、もう1つは複数の学習者で同一画面を閲覧することで、学習者間の協力関係が築きやすいことである。教材開発を始めた当初はグループの学習者全員が同じ内容のワークシートを持ち、各自のワークシートの設問を見ながら練習進めていくという方法を取っていたが、タブレット端末を導入後、1台のタブレット端末に表示された設問をグループの学習者全員で見るという方法に変えたところ、以前よりも学習者同士でのやりとりも増え、協力しながら練習を進めている場面が多く見られるようになった。タブレット端末は協力解答型の練習で利用価値の高いツールと言える。次にカードと比べた場合のタブレット端末の特徴として、いずれも情報の小分け提示に適したツールであるが、タブレット端末はカードと比べて1枚のサイズが大きく見やすい、タップするだけで瞬時に次の設問が表示されるのでカードをめくりながら進めるよりも時間を短縮できるという点が長所として挙げられる。さらに、タブレット端末では細かな提示順に配慮したり、難易度の高い設問にはヒント表示の機能を加えたりして学習者の習熟度に応じた教材を作成しやすいという利点もある。協力解答型の練習の中で設問の提示にタブレット端末を使用しなかったのは『IKB1』L6-1、『IKB2』L7-1、L7-2、L14-2であるが、このうち『IKB1』L6-1は複数の接辞（設問）が書かれたワークシート上にカード（解答の選択肢）を配置して複合語を完成させる練習のため、タブレット端末ではなく、カードを置きやすいワークシートを用いた。『IKB2』L7-1、L7-2は仮名表記の文（設問）をグループ内で分担して漢字仮名交じり文にした後、それらの文を順番に並べて1つの文章にするという練習のため、分担作業や順番の並べ替えがしやすいカードを用いた。『IKB2』L14-2は学習者それぞれが異なる例文（設問）をもとに、同一漢字を含む3つの熟語から自身の例文に入る語をグループで互いに情報交換しながら選ぶ練習で、グループの学習者それぞれが異なる情報を持つ必要があるため、ワークシートを用いた。

3.1.3 解答の選択肢

解答は、選択肢から選ぶものと、選択肢なしで学習者自身で考えるものとがある。このうち、選択肢から選ぶ練習においては、選択肢を一度にまとめて提示する練習と、設問ごとに分けて提示していく練習とで、3ツールを次のように使い分けた。

表3 解答の選択肢における3ツールの使用状況

解答の選択肢の提示に使用したツール	全設問分の選択肢をまとめて提示する練習	設問ごとに分けて選択肢を提示する練習
カード	『IKB1』L2-1, L2-2, L3-1, L3-2, L5-1, 復習1, L6-1, L6-2, L7-1, L7-2, L8-1, L8-2, L10, 復習2, 『IKB2』L3-2, L4-2, L5-2, L6-1, L6-2, L8-2, L11-2, L15-2, L16-1	
タブレット端末	『IKB2』L1, L4-1, L11-1	『IKB2』L2-2, L5-1, L10-1, L10-2, L14-2
ワークシート	『IKB1』L4, 『IKB2』L16-2	『IKB1』L9

まず、グループ練習で行う全設問分の選択肢をまとめて提示する際に多く用いたのはカードである。カードは、解答者が枚数から全体の設問数や練習の進行状況を把握できる、練習が進むにつれて枚数が減ることで答えやすさが増す、練習途中でも取ったカードでそれまでに出てきた漢字や語の確認がしやすい、取得枚数を競う形でゲーム的要素を盛り込みやすいといった利点がある。ただし、設問をカード

で提示する練習では、解答の選択肢でもカードを用いると枚数が増え、カードを置くため広い場所を要する上、学習者がそれぞれのカードをどう使うかがわからずに混乱する様子も見られたので、タブレット端末で選択肢を提示したところ、練習が円滑に進行するようになった（『IKB2』L1, L4-1, L11-1）。カードは机の上に並べる時間もある必要だが、タブレット端末ではタップするだけで瞬時に提示できるので準備時間を短縮できるという利点もある。また、ワークシートで選択肢を提示した課もある。『IKB1』L4はグループの学習者全員で1枚のワークシートを共有し、正解を確認した後、選択肢として挙げてある語の下に正解者名と獲得した点数を記入していくため、学習者で情報を書き入れるのに適したワークシートを用いた。『IKB2』L16-2は、その前に行うグループ練習（L16-1）で学習者がワークシートした語をそのまま選択肢として用いることができるため、ワークシートを用いた。

次に、設問ごとに分けて選択肢を提示していく際は主にタブレット端末を用いた。タブレット端末は練習の進行に合わせて必要な情報を順番に提示していくことに適したツールである。文字サイズも拡大表示できるため、学習者から複雑な字形の漢字が教科書や電子辞書よりも確認しやすくいいといった意見もあった。『IKB1』L9は出題解答型の練習で、『IKB2』と比べると練習内容の複雑さも少ないため、タブレット端末を使わずにワークシートで選択肢を提示しているが、今後タブレット端末の使用も検討したいと考えている。

3.1.4 解答記入欄

解答は、答えのカードを取ったり口頭で答えるだけのものと、書いて答えるものがある。後者については、解答を記入するためのワークシートを用意した。解答記入欄は『IKB1』では出題解答型でのみ用意した。これは出題者が解答者の選んだ答えが正解かどうか確認をしやすくするためと、出題解答型では出題者が口頭で出題するが、その情報の一部をワークシートに記載することによって、設問を聞き取りやすくするための2つの理由がある。『IKB2』ではすべての課においてワークシートを用意した。これは、学習者からの復習用に持ち帰りたいという要望を受けて対応したもので、口頭で一通り練習をして正解を確認した後、確認用にワークシートに記入するという方法を取っている。

3.1.5 解答（正解）

学習者が確認するための解答（正解）については練習タイプ別に次のように3ツールを使い分けた。

まず、出題解答型の練習では、出題者の持つ設問のカードに解答もあわせて提示し、出題者が解答を教える形とした。学習者自身で設問を考えてワークシートに記入する『IKB1』L1では、出題者のワークシートに解答が示されている。出題者から解答を教えることで、学習者間のやりとりを活性化することを目的としている。ただ、『IKB2』L4-1と『IKB2』L10-2では出題者の持つ設問のカードに加えてタブレット端末でも解答を示した。これらは意味や例文を聞いて語を選ぶ練習で、意味や例文中にも難易度の高い語が多く含まれていることから、タブレット端末で設問もあわせて提示することで、細かい点も確認しやすいよう配慮したものである。

次に、協力解答型の練習では、主にタブレット端末で解答を提示した。教材にタブレット端末を取り入れる前は、選択肢のカードの裏面に解答を提示することが多かったが、学習者がカードを並べる際にどちらの面を上にするか迷っている様子や、カードを取った学習者だけが解答を確認して他の学習者が確認できていない場面も見られたことから、タブレット端末を用いたところ、これらの問題は解消することができた。『IKB1』L5-1と『IKB2』L7-1ではいずれも次の練習（『IKB1』L5-2、『IKB2』L7-2）でカードの裏面の解答をヒントや設問として利用することから、タブレット端末ではなく、カードの裏面に解答を提示した。ワークシートでは一度に全設問の解答が提示されるが、タブレット端末やカードでは一問ずつ解答を提示できるため、学習者は確認がしやすくなる。

3.2 ツールの組み合わせ

前述の通り、グループ練習の導入当初はワークシートとカードの2ツールを組み合わせで教材を作成していたが、ワークシートに書かれた指示文を理解するのに時間がかかったり、カードの枚数が多くて練習が滞っていたり、解答（正解）の確認が十分にできていない様子が録音データ等から観察された。そこで、2013年度からタブレット端末も取り入れたところ、これらの問題点の解消にかなりの効果が見られた（濱田・高島，2014）ため、その後はワークシートとカードとタブレット端末の3ツールを組み合わせで教材を作成するようになった。ただ、学習者同士のやりとりを観察したところ、ワークシートとカード、タブレット端末とカードといった2ツールを組み合わせた教材では概ね順調に練習を進められていたが、同時に3ツールを組み合わせた教材では練習方法の理解に時間がかかったりやり方を間違えたりする様子も見られた。例えば『IKB2』L2-2では、以前の教材は設問でカード、解答の選択肢でワークシート、解答（正解）でタブレット端末を用いていたが、特にワークシートからタブレット端末に戻って練習を進める際に戸惑っている学習者が多かった。ワークシートは情報が一括提示されるため、学習者だけで多くの情報の中からその時点で必要な情報を読み取るのは難しかったものと思われる。そこで、設問と解答の選択肢についてもタブレット端末で提示し、ワークシートは正解確認後に解答を記入する際に用いるという方法に改めたところ、練習が円滑に進むようになった。設問と選択肢と解答（正解）に使用するツールは2つ以内としたほうがよいと考えている。『IKB1』L6-1については2ツールで作成するのが難しく、2016年度前期の時点でも3ツールを使用しているが、練習の進行中に混乱が見られる場合があり、どのように改善していくかが今後の課題である。

また、前述したように、『IKB2』では学習者からの要望を受け、一通り練習して正解を確認した後で持ち帰って復習に使えるようにワークシートに解答記入欄を設けていることから、L1、L7、L14以外の課ではタブレット端末やカードで提示される設問と同じものがワークシートにも記載されている。しかし、学習者が誤解してタブレット端末ではなく、ワークシート上で練習を進めてしまうことがあり、本来なら設問ごとに正解が確認できたはずが、それがないまま練習を進行する様子がたびたび見られた。2つのツールに同じ情報を載せたことで学習者が混乱してしまったものである。解答記入用のワークシートは練習終了後に配布するなどの配慮が必要だと考えている。

4 まとめ

まとめとして、表4にワークシート、カード、タブレット端末、各ツールの特徴を整理した。それぞれの特徴をもとに3ツールを適切に組み合わせることでより使いやすい教材作成が可能となること、ただしツールが多すぎると学習者の負担になるため、同時使用は2ツール以内としたほうがよいことを述べてきた。IT環境の整備が進む中、すべてを電子教材化するという方法もあるが、この場合、コンピュータ等に関してかなり高度な知識がないと作成が困難であり、開発にコストがかかる。これに対して本稿で紹介した教材は、ワークシートとカードはワープロ文書で作成したものを印刷し、タブレット端末はPowerPointやKeynoteなどの一般によく使われているプレゼンソフトで文字を入力したり画像を貼り付けたり簡単なアニメーション機能を加えたりしたスライドを用いたもので、基本的なPC操作ができれば誰でも簡単に作成できる。場所も机と椅子がある部屋であれば、どこでも練習できる。これらが最大の利点である。今後は、引き続き教材の改訂を行いながら、開発教材をインターネット上でダウンロードできるようにするなど公開方法を検討していく予定である。

表4 各ツールの特徴

		ワークシート	カード	タブレット端末
教材全体	情報を一度にまとめて提示する	◎	○	△
	情報を分けて提示する	△	◎	◎
	練習の進行に合わせその段階で必要な情報のみを提示する	/	△	◎
	練習途中で既に行った練習内容を確認する	◎	○	/
	学習者自身で情報を書き加える	◎	△	/
	練習を行うために広いスペースを確保しなくて済む	△	/	◎
	練習開始前の準備時間が短くて済む	◎	/	◎
	文字を大きく見やすく提示する	/	○	◎
	学習者が自宅に持ち帰って復習に用いる	◎	/	/
設問、 解答の選択肢	学習者全員で同じ情報を共有する	○	○	◎
	学習者それぞれが異なる情報を持つ	◎	◎	/
	他の学習者に自身の持つ情報が見えないようにする	○	◎	/
	他の学習者に自身の持つ情報の一部を見せる	△	◎	/
	漢字や語の難易度に合わせた提示順にする	○	/	◎
	ヒント表示機能を盛り込む	/	/	◎
設問	学習者で設問の提示順を変更する	○	◎	/
	学習者自身で設問内容を考える	◎	/	/
解答の選択肢	全体の設問数や練習の進行状況を把握する	◎	◎	/
	練習が進むにつれて選択肢数が減り、答えやすさが増す	○	◎	/
	解答数や速さを競うといったゲーム的要素を盛り込む	△	◎	/
解答記入欄	漢字の書き練習を行う	◎	/	/
	練習終了後に教師がフィードバックを行う	◎	/	/
解答(正解)	出題者から伝えることで学習者同士のやりとりが増す	○	◎	/
	協力解答型で一問ずつ解答(正解)を確認しながら進める	/	◎	◎

*◎は「大変適している」、○は「適している」、△は「可能である」を示す。
(/の中にも可能なものがあるが、実現には多くの労力や工夫が必要となる。)

付記

本稿は2016年日本語教育国際研究大会(2016年9月10日)「漢字クラスにおけるグループ練習用教材—ワークシート、カード、タブレット端末の効果的な活用法—」(濱田美和・高島智美)での発表内容を大幅に加筆修正したものである。また、本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)「グループ練習活動を取り入れた漢字授業のデザインと教材開発」平成27-30年度(課題番号JP15K02636)による成果の一部である。

注

- 1) 日本の大学で学ぶ外国人留学生を対象とした授業で、交流協定校からの短期留学生、日本語・日本文化研修留学生、大学院生、研究生等が受講している。
- 2) 1クラス2~3グループで行うことが多い。習熟度別に複式授業とする期もあるため、クラス全員がグループ練習を行うわけではない。複式授業の際は、グループ練習の間、教師は他のレベルの学習者への指導を行っている。
- 3) グループ練習の内容は教材の改訂にあわせて学期ごとに少しずつ修正を加えている。表1で示した内容は2016年度前期のものである。

参考文献

- (1) 濱田美和・高島智美(2013)「漢字学習のためのグループ練習用教材の開発—日本語学習者同士で円滑に学習活動を行うための方法を探る—」『富山大学留学生センター紀要』第12号, pp.1-8
- (2) 濱田美和・高島智美(2014)「グループ練習におけるタブレット端末の活用—日本語学習者向け漢字教材の改良とその効果—」『CIEC研究会報告集』5巻, pp.46-51